

日本赤十字社における 献血推進の取組み

平成 20 年 9 月 3 日

目 次

1. 献血構造改革	1
(1) 若年層献血等確保推進事業	1
ア. 青少年等献血ふれあい事業	
イ. 若年者献血セミナー事業	
ウ. 献血協力団体研修事業	
エ. 献血協賛企業活動推進事業	
(2) 複数回献血協力者確保事業	2
2. 献血推進のための広報活動	3
(1) いのちと献血俳句コンテストの実施 (10～3月)	3
(2) 全国献血キャンペーンの実施	4
ア. 愛の血液助け合い運動月間 (7月)	
イ. 全国学生クリスマス献血キャンペーンの実施 (12月)	
ウ. はたちの献血キャンペーン (1～2月)	
エ. 春の献血キャンペーン (3～4月)	
3. その他広報活動	8
(1) 献血啓発用教材の制作と配布	8
(2) 献血協賛企業活動推進のための広活動	9
ア. ポスター・ステッカーの制作と活用	
イ. 専用WEBサイトの構築	
ウ. 全国規模の企業・団体への働きかけ	
(3) メディアからの取材対応	10
(4) 複数回献血者クラブ会員へのサービス向上のための広報活動	11
4. 献血者確保対策	12
(1) 若年層献血者への献血要請	12
(2) 献血推進団体による献血協力者募集活動の促進	12
(3) 若年層献血確保対策	13
(4) 複数回献血者確保対策	13
(5) その他確保対策	14
5. 献血受入れ環境の整備	14

日本赤十字社における献血推進の取組み

日本赤十字社の役割は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律の第六条（採血事業者の責務）に、献血の受入れを推進し、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保に協力するとともに、献血者等の保護に努めなければならないことと定められています。

1. 献血構造改革

平成18年3月に国から示された「献血構造改革」を踏まえ、将来にわたって安定的に献血者を確保できる基盤づくりを目的として、(1)「若年層献血等確保推進事業」(ア. 青少年等献血ふれあい事業 イ. 若年者献血セミナー事業 ウ. 献血協力団体研修事業 エ. 献血協賛企業活動推進事業)及び(2)「複数回献血協力者確保事業」を実施しています。

(1) 若年層献血等確保推進事業

少子高齢化が益々進行していく中で、将来にわたって安定的に献血者を確保できる基盤をつくるため、若年者(10代、20代)への献血普及・啓発を実施する。

	目標 (献血者全体に占める10代、20代の割合)	実績
平成18年度	30.0%	31.0%
平成19年度	32.0%	29.2%

ア. 青少年等献血ふれあい事業

(別紙P1~4参照)

血液センター、血漿分画センター、献血バス等の施設見学を推進し、スライド等の説明用資材を活用した説明会や献血ボランティア体験学習等を行う。

区分 年度	実施回数		参加人数						
			目標	実績					
	目標	実績		幼児	小学	中学	高校	保護者	合計
平成18年度	48	474	15,360	989	15,561	1,579	9,742	3,685	31,556
平成19年度	53	571	16,900	934	12,062	2,714	6,925	4,557	27,192

イ. 若年者献血セミナー事業

(別紙 P5～6 参照)

血液センター施設及び地域の施設等を利用して、若年者向けの献血セミナーを開催し、献血への理解と協力意識の向上を図る。

区分 年度	実施回数		参加人数					
	目標	実績	実績					
			高校	大学	他学生	社会人	その他	合計
平成 18 年度	94	209	8,202	7,476	2,466	2,005	5,070	25,219
平成 19 年度	103	322	10,926	7,651	6,445	2,551	873	28,446

※参加人数の目標は平成 18 年度実績を基準として毎年 10%増加させること。

ウ. 献血協力団体研修事業

学生ボランティア及び献血推進団体の連携強化を目的として、より一層献血推進活動が活発になるよう相互の打合せ会や研修会を開催する。

(全国 7 ブロック単位に実施)

区分 年度	実施回数		参加人数					
	目標	実績	実績					
			高校	大学	他学生	社会人	その他	合計
平成 18 年度	—	26	1	337	47	400	25	810
平成 19 年度	29	33	0	491	65	483	315	1,354

※実施回数と参加人数の目標は平成 18 年度実績を基準として毎年 10%増加させること。

エ. 献血協賛企業活動推進事業

献血協力企業・団体が行う献血活動を社会貢献活動の一つとして広く社会に認知されるよう、ロゴマーク等を発行することにより、企業・団体が行う献血活動の普及・拡大を図る。

区分 年度	ロゴマーク 配布数	献血協力企業・団体数	
		目標	実績
平成 17 年度	—	—	24,220
平成 18 年度	1,454	30,300	30,835
平成 19 年度	1,895	33,600	34,059



全国的な広報活動として、献血協賛企業・団体募集用ポスター、ステッカーを制作し活用するとともに、WEB 専用サイトを構築し、参加企業・団体の募集活動に努めている。

(2) 複数回献血協力者確保事業

(別紙 P7～9 参照)

安全な血液を安定的に確保するため、一年間に2回以上献血に協力する献血者（以下「複数回献血協力者」という。）を確保する。

各血液センター毎に複数回献血協力者を確保するためのクラブを設立し、クラブ会員に対して、情報誌の発行及び電子メール等による情報発信、各種講演会等の開催、健康相談事業の実施等により、複数回献血協力者の確保推進を図る。

	クラブ 会員数	情報誌等 発行部数	講演会等 開催数	健康相談 実施回数	献血者数	
					年1回	年2回以上
平成17年度	—	—	—	—	2,419,644 (73%)	917,482 (27%)
平成18年度	70,800	2,501,293	81	1,121	2,262,210 (72%)	883,612 (28%)
平成19年度	109,400	2,527,731	80	1,280	2,160,700 (70%)	904,773 (30%)

クラブ会員には、成分献血の予約、携帯待受け画像(血液型別)、パソコン用壁紙(血液型別)、スクリーンセーバーの提供及び携帯着メロのダウンロードサービスを提供しており、さらに本年4月からは携帯及びパソコンから献血履歴や血液検査成績が照会できる機能を構築し運用している。

2. 献血推進のための広報活動

(1) いのちと献血俳句コンテストの実施 (10～3月)

厚生労働省、文部科学省、各都道府県及び市町村教育委員会等の後援により、小学生から高校生を中心に広く一般の方々も巻き込んで、俳句コンテストを実施し、俳句の応募を通じて、年少者のうちから献血の啓発する機会を広げている。

応募の募集にあたっては、全国約45,000校の小学校から高等学校までの学校へご案内するとともに、全国の教師が集うネットワークに働きかけ、献血の知識について解説した教材(テキスト)を配布し、授業現場に取り入れ易いようなアプローチを実施している。



	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
応募作品数	約 28 万	約 35 万	38 万以上(目標)
応募団体数	小学校 2,239 校 中学校 880 校 高等学校 391 校	小学校 2,129 校 中学校 1,050 校 高等学校 636 校 一般団体 34 団体	
全国表彰	平成 19 年 2 月 テレビ東京スタジオ 厚生大臣賞、審査員特別賞、日本赤十字社長賞等	平成 20 年 2 月 東京プリンスホテル 厚生大臣賞、文部科学大臣賞、審査員特別賞、日本赤十字社長、日赤本部長賞等	平成 21 年 1 月下旬 (場所未定)
各血液センター表彰	平成 19 年 3 月 血液センター所長賞等	平成 20 年 3 月 血液センター所長等	
作品集	6 万部	6 万部	

※平成 18 年度第 1 回目開催。平成 18 年度以前は関東・甲信越ブロックで 4 年間実施。

(2) 全国献血キャンペーンの実施

ア. 愛の血液助け合い運動月間 (7 月)

すべての血液製剤を国民の献血によって安定的に確保する体制を早期に確立するため、広く国民の間に献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に継続的な推進が必要な成分献血・400mL 献血への協力と血液製剤の適正使用への協力を求め、献血運動の一層の推進を図ることを目的とする。

ア) 全国的に実施したこと (平成 19 年度実績)

項目	内容	備考
広報資材制作	ポスター CM素材 ニュースリリース	血液センターへ配布
宣伝	全国紙新聞広告 駅貼りポスター (東京、大阪) 各メディアへのニュースリリース発信	
第 43 回全国献血運動推進大会	採血会場御視察 昭和天皇記念等表彰 体験発表	厚生労働省、福井県と共催



イ) 各血液センターが実施したこと（平成19年度実績）

項目	内容	備考
広報資材活用	ポスター CM素材 ニュースリリース	献血推進団体、各報道機関等への配布・出稿
イベント・キャンペーンの実施	学生サマー献血キャンペーン 献血パレード タイアップキャンペーン	都道府県及び市町村、各献血推進団体と連携した各種キャンペーンを実施
宣伝	各種媒体の活用 ノベルティの制作・配布 大垂幕、看板等の資材制作	
PR活動	各報道機関へのイベント、キャンペーンの取材誘致	

イ. 全国学生クリスマス献血キャンペーンの実施（12月）

全国の学生代表による「全国学生献血推進実行委員会」を年3回実施し、さらに全国各都道府県から学生を集めた「全国学生献血推進代表者会議」を開催し、毎年12月1日～24日の間で、全国各地にて学生主体によるクリスマス献血キャンペーンを実施している。

1988年(昭和63年)より。冬季献血者確保を目的に実施しており、学生みずからが企画し、献血への理解と協力をアピールすることにより、若年層への献血啓発に繋がっている。

(平成19年度献血実績 約13,000人)

ウ. はたちの献血キャンペーン (1~2月)

献血者が減少しがちな冬期において、安全な血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として、広く国民各層に対して献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に成分献血・400mL献血の継続的な推進を図ることを目的とし実施している。

ア) 全国的に実施したこと (平成19年度実績)

項目	内容	備考
広報資材制作	ポスター CM素材 ニュースリリース	血液センターへ配布
宣伝	テレビスポット ラジオスポット (東京、大阪) 交通広告 (山手線、大阪市営地下鉄) 各メディアへのニュースリリース 発信	民放連、民鉄協、日本コミュニティ放送協会の各本部へ後援の依頼を実施
イベント	記者発表会 (東京) 街頭イベント (大阪)	メディア取材誘致
ノベルティ	献血者記念品の制作	血液センターへ配布



イ) 各血液センターが実施したこと (平成19年度実績)

項目	内容	備考
広報資材活用	ポスター CM素材 ニュースリリース	献血推進団体、各報道機関等への配布・出稿

イベント・キャンペーンの実施	成人式献血 献血パネル展 タイアップキャンペーン 著名人、スポーツ選手等を起用した 各種イベントの実施	都道府県及び市町村、各献血推進団体、学生ボランティアと連携した各種キャンペーンを実施
宣伝	各種媒体の活用 ノベルティの制作・配布 横断幕、看板等の資材制作	民放連、民鉄協、日本コミュニティ放送協会に加盟している放送局や団体へ協力依頼を実施
PR活動	各報道機関へのイベント、キャンペーンの取材誘致	

エ. 春の献血キャンペーン (3~4月)

一年のうちで最も献血者が減少する春の時期の輸血用血液の安定供給を図るため、献血動員が図られるような広報活動を展開し、若年層献血及び複数回献血、400mL献血の実質的効果を出すことを目的とする。

ア) 全国的に実施したこと (平成19年度実績)

項目	内容	備考
広報資材制作	ポスター CM素材 ニュースリリース キャンペーン告知用リーフレットの制作	血液センターへ配布
宣伝	テレビスポット ラジオスポット (毎週火・木・土曜日) WEB専用ページ (キャンペーングッズの応募案内など) 各メディアへのニュースリリース発信	民放連、民鉄協、日本コミュニティ放送協会の各本部へ協力依頼を実施
イベント	記者発表会	メディア取材誘致
ノベルティ	キャンペーンTシャツ 献血者記念品の制作	血液センターへ配布